

中間評価の進め方とスケジュールについて

平成31年2月21日

日本原子力研究開発機構
核燃料・バックエンド研究開発部門
地層処分研究開発推進部

中間評価のスケジュールと内容

【改訂後】
第26回資料(資料26-2)より改訂

	説明事項(JAEA)	審議検討事項/アウトプット(委員会)
第26回 (H30.11.8)	方針・進め方説明 研究開発成果(概要)の報告 自己点検結果の提示	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 方針・進め方の確認・議論 ✓ 成果(概要)の確認・議論 ✓ 自己点検結果の確認・議論
第26回後 ~第27回前	研究開発成果(概要)の報告フォロー【12/6】 (成果にリンクを貼る等修正の上送付) 研究開発成果(詳細)の資料事前送付【2/13】 自己点検結果・評価シートの改訂版送付【2/13】	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 成果(概要・詳細)の確認 ✓ 自己点検結果の確認
第27回 (H31.2.21)	研究開発成果(詳細)の報告 1) 深地層の研究施設計画(瑞浪・幌延)* 2) 地質環境の長期安定性に関する研究 3) 地層処分研究開発 4) 直接処分研究開発	<p style="text-align: center; color: red;">各委員による資料確認と 評価シートの作成 【2/13~2/26】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 成果(詳細)の確認・議論 ✓ 評価の方向性について合意
第28回 (H31.3.6)	<div style="border: 1px solid red; padding: 2px; text-align: center; margin-bottom: 5px;"> 第27回後~第28回前⇒評価シートの集約(事務局)⇒答申案の作成(委員長) </div> 答申書案の提示	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 答申書案の確認・議論 <p style="text-align: center; color: red;">⇒答申書のセット</p>
第28回後	理事長への答申、評価報告書(JAEA-Evaluation)の作成	

*: 成果の報告と併せて、深地層の研究施設検討委員会において評価を受けた結果を報告する。

評価表の記入

第3期中長期計画期間中の研究開発における研究開発成果 評価シート（中間評価）

評価項目：(1) 研究開発の進捗状況の妥当性
1)～4)の全体評価

<評価の観点に関する実績・成果及び自己評価結果>

上記のように、1) 深地層の研究施設計画（超深地層研究計画及び幌延深地層研究所計画）、2) 地質環境の長期安定性に関する研究、3) 高レベル放射性廃棄物の地層処分研究開発、4) 使用済燃料の直接処分研究開発のすべての項目において、中長期計画に従った研究開発を着実に進め、実施主体が行う地質環境調査、処分システムの設計・安全評価等のための技術基盤を整備に資する重要な成果を創出しているとともに、各項目において、特筆すべき顕著な成果が得られていることから(1)全体の自己評価を「A」とした。

<評価の結果>

評価結果/ 評価指標 (いずれかに○ を記載願います)	S	: 特に顕著な成果の創出や将来的な特別な成果の創出の期待等が認められる。
	A	: 顕著な成果の創出や将来的な特別な成果の創出の期待等が認められる。(達成度 120%以上)
	B (標準)	: 成果等の創出に向けた着実な進展が認められる。(達成度 100%以上 120%未満)
	C	: 一層の工夫・改善の必要性が認められる。(達成度 80%以上 100%未満)
	D	: 抜本的見直しを含め特段の工夫・改善の必要性が認められる。(達成度 80%未満)
コメント		

※評価にあたっては、<評価の結果>の評価指標欄のいずれかに○を付けていただき、その補足としてコメントをご記入をお願いします。

○評価シートは、評価項目毎に分かれています。

[評価項目]

(1) 研究開発の進捗状況の妥当性(下記1)～4)の全体評価)

- 1) 深地層の研究施設計画(瑞浪)
深地層の研究施設計画(幌延)
- 2) 地質環境の長期安定性研究
- 3) 高レベル放射性廃棄物の地層処分研究開発
- 4) 使用済燃料の直接処分研究開発

(2) 情勢変化に対応した研究開発の目的・目標、進め方の見直しの必要性(継続、変更、中止等の決定)

(3) 効果・効用(アウトカム)の暫定的確認

(4) イノベーション創出への取組み

(5) 国内外他機関との連携の妥当性

(6) 国民との相互理解促進及び人材育成に関する活動の妥当性

(7) 研究資金・人材等の研究開発資源の再配分の妥当性

(1)～(7)の総合評価

○今回の委員会において、研究成果(詳細版)のプレゼンをお聴きになった上で、
<評価の観点に関する実績・成果及び自己評価結果>をご一読いただき、
<評価の結果>の評価指標欄のS～Dいずれかに○印を付けていただき、コメントをご記入の上、事務局までご送付ください。

○評価シートの事務局への締切は、
2月26日(火)です。
(遅くなる場合は事前にご一報下さい。)

今後のスケジュール



- ・**2月21日(木)[今回委員会]** :
【委員】研究開発成果の確認・議論、評価の方向性について合意、自己点検結果の確認、評価シートの記入
- ・**2月26日(火)** :
【委員】評価シートの事務局への提出締切
- ・**～3月5日(火)** :
【事務局】評価シートの集約と答申書案作成

- ・**3月6日(水)[次回委員会]** :
【事務局】評価結果と答申書案の提示
【委員】評価結果と答申書案の確認と議論
→答申書案の修正
- ・**3月11日の週** :
【事務局】答申書のセットと理事長への答申
- ・**理事長への答申以降** :
報告書の作成等

II. 研究開発の成果の最大化その他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

6. 核燃料サイクルに係る再処理、燃料製造及び放射性廃棄物の処理処分に関する研究開発等

(3) 高レベル放射性廃棄物の処分技術等に関する研究開発

高レベル放射性廃棄物の地層処分の実現に必要な基盤的な研究開発を着実に進めるとともに、実施主体が行う地質環境調査、処分システムの設計・安全評価、国による安全規制上の施策等のための技術基盤を整備し、提供する。さらに、これらの取組を通じ、実施主体との人材交流等を進め、円滑な技術移転を進める。

加えて、代替処分オプションとしての使用済燃料直接処分の調査研究を継続する。

これらの取組により、我が国の将来的な地層処分計画立案に資する研究成果を創出するとともに、地層処分計画に基づいた地層処分事業に貢献する。

研究開発の実施に当たっては、最新の科学的知見を踏まえることとし、実施主体、国内外の研究開発機関、大学等との技術協力や共同研究等を通じて、最先端の技術や知見を取得・提供し、我が国における地層処分に関する技術力の強化・人材育成に貢献する。

また、深地層の研究施設の見学、ウェブサイトの活用による研究開発成果に関する情報の公開を通じ、地層処分に関する国民との相互理解促進に努める。

参考)第3期中長期計画 (平成27年度～平成33年度) 抜粋 (2/2)

1) 深地層の研究施設計画

超深地層研究所計画(結晶質岩:岐阜県瑞浪市)と幌延深地層研究計画(堆積岩:北海道幌延町)については、機構が行う業務の効率化を図りつつ、改革の基本的方向を踏まえた調査研究を、委託などにより重点化し、着実に進める。研究開発の進捗状況等については、平成31年度末を目途に、外部専門家による評価等により確認する。なお、超深地層研究所計画では、土地賃貸借期間も念頭に調査研究に取り組む。

超深地層研究所計画については、地下坑道における工学的対策技術の開発、物質移動モデル化技術の開発及び坑道埋め戻し技術の開発に重点的に取り組む。これらに関する研究については、平成31年度末までの5年間で成果を出すことを前提に取り組む。また、同年度末までに、跡利用を検討するための委員会での議論も踏まえ、土地賃貸借期間の終了(平成34年1月)までに埋め戻しができるようにという前提で考え、坑道埋め戻しなどのその後の進め方について決定する。

幌延深地層研究計画については、実際の地質環境における人工バリアの適用性確認、処分概念オプションの実証及び地殻変動に対する堆積岩の緩衝能力の検証に重点的に取り組む。また、平成31年度末までに研究終了までの工程やその後の埋め戻しについて決定する。

2) 地質環境の長期安定性に関する研究

自然現象に伴う地質環境の変化を予測・評価する技術を、地球年代学に係る最先端の施設・設備も活用しつつ整備する。

3) 高レベル放射性廃棄物の地層処分研究開発

深地層の研究施設計画や地質環境の長期安定性に関する研究の成果も活用し、高レベル放射性廃棄物の地層処分に係る処分システム構築・評価解析技術の先端化・体系化を図る。

4) 使用済燃料の直接処分研究開発

海外の直接処分に関する最新の技術動向を調査するとともに、高レベル放射性廃棄物の地層処分研究開発の成果を活用しつつ、代替処分オプションとしての使用済燃料直接処分の調査研究に取り組み、成果を取りまとめる。